

退職者連絡会

第53号
(発行・編集)
J R九州労組
退職者連絡会
鹿児島地区本部

湧水町議選「橋元よしつぐ」氏 少数激戦を制し、見事3期目の当選

鹿児島県始良郡湧水町議会議員選挙は、四月十八日投開票が行われ、J R九州労組準公認の「橋元義嗣」候補（元吉松運輸センター）が厳しい3期目の闘いを制し、見事七位で当選を果たしました。

今回の選挙戦は、今年行われるであろう衆院選の前哨戦と位置づけ、人口減問題、コロナ感染拡大防止対策、さらに子育て世帯の支援や高齢者の介護福祉の支援、農林畜産業の振興、街の活性化等等、多くの課題への取り組みが問われる重要な闘いでした。十二の定数に対し、十七人が立候補、現職十一人、元職二人、新人四人が入り乱れた少数激戦の闘いとなりました。同時に実施された町長選は、池上滝一氏が無投票



中原委員長(右)とガッチリ握手

職十一人、元職二人、新人四人が入り乱れた少数激戦の闘いとなりました。同時に実施された町長選は、池上滝一氏が無投票

で二期目の当選となりました。投票率は七五・八四％で、前回を四・一五ポイント下回りました。選挙戦では、地元でもある退職者連絡会の久木元繁副会長を事務局長に任務配

置するとともに、四月一日には、地元で現職・退職活動者集会を開催し、橋元よしつぐ氏の三期目必勝を誓い合いました。また組合員やOB等による点検・拡大行動を展開し、支持を訴えてきました。

四月十三日の出発式には、地本三役、退連会役員等が参加組織を代表して中原博徳中央執行委員長が挨拶「J R九州もコロナ禍で、経営環境も極めて厳しい状況にある。肥薩線も吉松・八代間は昨年七月の豪雨災害で今だ復旧見通しも立っていない。吉都線など地方交通線も乗客減により厳しい現状にあるが、鉄道の町として発展してきた湧水町（旧吉松町）の橋渡し役として、橋元候補の三期目必勝を」と力強く訴え、

ご支援をお願いしました。

四月十八日投開票日には支持者らが訪れ、午後九時三〇分過ぎ、選対事務所に当選の一報が入ると、支持者の拍手が響きました。

祝勝会で花束を贈られた候補は、多くの支持者を前に「皆様のご支援で当選を

第一回あいらグラウンドG大会 「野間たけし」元衆議員が激励 始良退連会「D51」チームも参加

四月一日、第一回あいら白馬（野間たけし）杯グラウンドゴルフ大会が加治木町運動公園でマスク着用で開催されました。

当日は緑薫る晴天に恵まれ、始良市民ら三二〇名（六四チーム）が参加しました。

始良市居住の退連会会員でつくる「D51」は、3チーム（十五人）を編成し、参



加しました。開会式では、Gゴルフ大会に激励にきた「野間たけし前衆議員」が挨拶「日頃の練習の

果たすことができた。二期八年の経験を生き、町民目線での政策の実現を全力で取り組む」と決意を述べました。

今日までの組合員・会員のご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

（J R九州労組退職者連絡会）

成果を存分に発揮され、優勝をめざし頑張ってください。今年の十月までには解散・総選挙が行なわれます。皆様のご支援に応えるため、全力で頑張ります」と決意を述べられました。

午前十時、笛の合図で六四チームが一斉にスタート。各地から選ばれた精鋭チームだけにホールインワンが続出、歓声が上がりました。表彰式では抽選会も行なわれ、名前を呼ばれると場内から拍手と歓声が沸き、野間健さんが一人ひとりに商品を手渡し、祝いました。

編集後記

コロナ第四波、変異株が全国に蔓延。ワクチン接種も今だ一％。自・公政府の無策振りが露呈しオリ・パラ開催も微妙だ。十月迄には解散総選挙。もう我慢の限界。選挙戦で怒りのしっぺ返しを！